

平成27年度水戸市高齢者クラブ連合会総会

基本方針

戦後70年という歳月は、戦争の時代を生き抜き、戦火に荒廃した国土の復興を担った世代から、高度成長の時代に現役として活躍した、いわゆる「団塊の世代」がすべて65歳以上となり、活動の主力となる時期を迎えています。

さて、本市でも高齢者数は6万7千人を超え、超高齢社会の構造が普遍的になって久しいところでありますが、このような長寿社会にあつて私たち高齢者は単なる弱者に甘んじることなく、新しい仲間の価値観と行動力、長い歴史の中で培った諸先輩方の経験と能力を活かして、社会に貢献し影響を与えていかなければなりません。

水戸市高齢者クラブ連合会は、そのネットワークを活かした温かい地域づくりから、住み慣れた地域で安心して暮らせる社会づくりを目指します。また、その役割を支える活動力の強化のため、外部への積極的な情報発信、地域諸団体との連携・協力、時代に合った活動の充

実、会員増強を図ることを今年度の指針といたします。



重点活動

①若手高齢者の加入促進によるクラブの活性化と「老人クラブ100万人会員増強運動」(2年目)の推進

②高齢者クラブの組織強化と新規クラブ発足の推進

③友愛・奉仕の精神で「地域支え合い活動(見守り・声かけ活動)」の推進

④地域諸団体と連携した、地域福祉活動と社会貢献による地域づくり活動の推進

⑤高齢者クラブ活動の魅力と楽しさの外部発信強化の推進



⑥若手高齢者、女性リーダーの育成・登用

⑦健康長寿を伸ばす「健康づくり・介護予防活動」の推進

⑧高齢者を充実した豊かなものにする文化活動の推進

◆趣味・教養活動の実践

◆親睦行事・旅行の企画

◆レクリエーション・スポーツイベントの開催など

平成26年度事業報告

①単位クラブ活動について

会員の高齢化が進み、活動が停滞しがちになる中、地域のひとりと暮らし高齢者への声かけや訪問、交流サロンなどを始める動きが目立ちました。また、リーダー育成のため若手会員の登用や会員獲得のため、独自でチラシを作り、町内会をはじめ地域の関連団体に呼びかけなどの活動も行われました。

そうした成果として、平成27



年度4月1日付の会員数調査では約500人近い会員増となり、解散クラブはありませんでした。

②地区高連の活動について

単位クラブの支援活動や地区活動、特に小学校と連携した3世代交流事業では、児童を対象にした戦争体験や地域文化等の伝承活動が注目を浴びています。

③ブロック高連活動について

今年度は、2ブロックが新たに活動を開始しました。いずれもスポーツ活動ですが、合計4ブロックとなりました。スポーツ大会に限らず、各ブロックにおいても内容を工夫した活動を展開していただきたい。

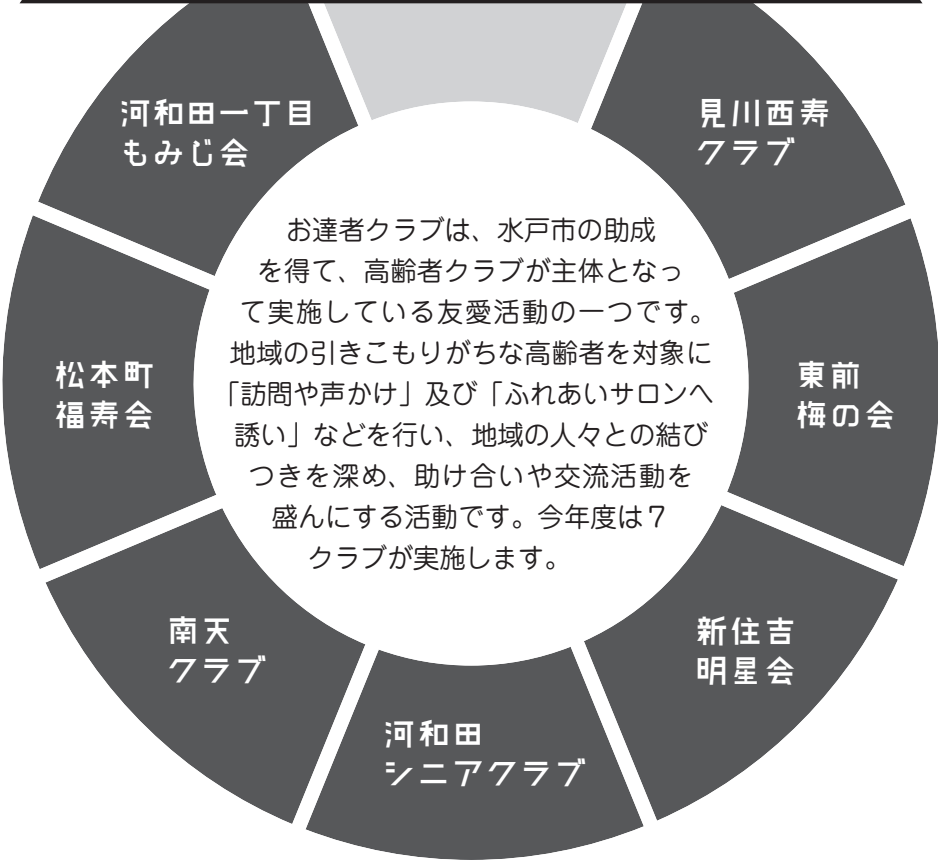
事業計画

期 日	事 業 内 容
平成27年4月～5月	全国加入促進強化月間
4月21日	平成26年度 市高連監査
4月24日	第1回 役員会／女性委員会(合同)
5月11日～20日	春の全国交通安全運動
5月22日	第2回 女性委員会
5月26日	水戸市高齢者クラブ連合会総会
6月29日	第42回 水戸市高齢者クラブ芸能発表大会
7月23日	第2回 役員会
8月6日～11日	第52回 水戸市高齢者作品展
9月9日	第26回 市高連スポーツ大会
9月20日	市高連社会奉仕の日
9月21日～30日	秋の全国交通安全運動
9月30日	高齢者交通安全推進委員研修会(主催 地域安全課担当)
10月16日	第3回 役員会
10月28日	第3回 女性委員会
12月2日	第39回 水戸市高齢者クラブ大会
12月16日	第4回 女性委員会
12月下旬	歳末清掃日
平成28年1月20日	第5回 女性委員会
1月28日	第4回 役員会
調整中	新任会長研修会
調整中	第42回 市高連主催研修旅行
調整中	リーダー研修会
調整中	第22回 女性代表者研修会
調整中	健康づくり・介護予防研修会
随 時	研修・旅行委員会
随 時	スポーツ委員会
随 時	広報委員会
随 時	地域づくり推進委員会(100万人会員増強運動推進における新委員会)

※期日及び場所等は、変更となる場合がありますので御了承ください。
平成27年7月、平成28年1月 広報紙「高壮だより水戸」発行

わたしたちは水戸市高齢者クラブ連合会の活動を応援しています

平成 27 年度 お達者クラブ事業



高齢者と子供のふれあい事業

「高齢者と子供のふれあい事業」は、高齢者と子どもとの世代間交流活動を推進して、生活文化の伝承活動により高齢者の生きがいと児童の健全育成を図ることを目的に、実施クラブに対して水戸市が助成している事業です。

実施主体は高齢者クラブで今年度は、14 団体（10 地区高連、4 単位クラブ）が実施します。内容も多種多様で、小学校児童を対象とした戦争体験を伝える活動や、昔あそびの伝承、畑づくりからジャガイモやサツマイモの栽培、季節のイベント（お祭りやクリスマスなど）での交流など、地域性を活かしそれぞれ内容も工夫されています。地域コミュニティが成り立たなくなっている今、長く地域で暮し、地域を誰よりも知っている高齢者が、子どもたちに未来を託す活動を日々行っていることを多くの方々に知っていただきたいと願っています。

実施クラブ	実施年度
笠原地区高齢者クラブ連合会	26 ～ 27 年度
堀原地区高齢者クラブ連合会	26 ～ 27 年度
新荘地区高齢者クラブ連合会	26 ～ 27 年度
緑岡地区高齢者クラブ連合会	26 ～ 27 年度
山根地区高齢者クラブ連合会	26 ～ 27 年度
百合が丘ピアクラブ	26 ～ 27 年度
吉田梅寿会	26 ～ 27 年度
柳河地区高齢者クラブ連合会	27 ～ 28 年度
常磐地区高齢者クラブ連合会	27 ～ 28 年度
三の丸地区高齢者クラブ連合会	27 ～ 28 年度
東前梅の会	27 ～ 28 年度
五軒地区高齢者クラブ連合会	27 ～ 28 年度
吉田地区高齢者クラブ連合会	27 ～ 28 年度
谷田シニアクラブ	27 ～ 28 年度

わたしたちは水戸市高齢者クラブ連合会の活動を応援しています

事業予算

収入の部（単位：円）

科目	予算額	摘 要
会費	1,875,000	@15,000 × 125 クラブ (市 10,000 + 県 5,000)
補助金	1,384,000	水戸市補助金 1,099,000 水戸市社会福祉協議会補助金 285,000
雑収入	300,100	利息 100 スポーツ大会参加料 300,000
繰入金	5,610	東日本大震災救援拠金 特別会計から繰り入れ
繰越金	120,939	前年度繰越金
合計	3,685,649	

支出の部（単位：円）

科目	予算額	摘 要
事務費	140,000	消耗品費 10,000 通信運搬費 5,000 図書購入費 5,000 旅費 20,000 手数料 100,000
会議費	380,000	総会経費 260,000 役員会経費 50,000 委員会費 70,000
活動費	1,840,000	芸能発表大会 280,000 高齢者作品展 120,000 スポーツ大会 600,000 ブロック活動費 140,000 高齢者クラブ大会 600,000 広報活動・広報誌発行 100,000
研修費	206,000	女性委員会研修会 80,000 健康づくり・介護予防研修 36,000 県老連主催研修会 30,000 幹部指導研修会 60,000
負担金	1,090,000	県老連負担金 680,000 会議出席者負担金 30,000 地区連交付金 380,000
慶弔費	20,000	弔慰金 20,000
予備費	9,649	
合計	3,685,649	



第42回 水戸市高齢者クラブ芸能発表大会



華やかに 歌い・踊り・舞う

芸能発表！

平成 27 年 6 月 29 日、県民文化センター小ホールで、29 チーム、296 人が鮮やかな舞台照明の中、民舞、コーラス、ダンスなどを熟演した。ギター弾き語り、マジック、生演奏によるコーラスなどの目新しい演目が増え、大いに楽しませてくれた。今年度から一般公開することになり、市の広報紙や口コミで広がり多くの方にご来場いただいた。

会場には、毎年招待している老人ホームの皆さんも 20 名観覧され、帰り際に「楽しかったよ！」「また、来年も楽しみにしているよ！」と笑顔で声をかけてくださった。

出演者の方々も同じ高齢者クラブの仲間同士、楽屋ではお互いに譲り合ったり、交流したり和気あいあい和やかな雰囲気であった。

フィナーレは双葉台の 2 つの高齢者クラブの先導で「青い山脈」を出演者・応援者・一般観覧者 500 人全員で合唱、散会となった。



わたしたちは水戸市高齢者クラブ連合会の活動を応援しています

老人
クラブ

「100万人会員増強運動」の取り組み

『動くサロン』でふれあい、語り合い、いきいきと

千波むつみ会 岩本多實 (千波地区)

当クラブでは、前年度から2つのサロン活動を行なっている。会員同士の接触が少なく、高齢化に伴う退会が進む中、近場で気軽に集い、健康づくり、

教養、生活支援で明るく支え合い、さらに新たな会員の加入を図る場として、いきいき「むつみ会」サロンを開設し、月に2回活動している。

一つは、健康づくり、知力増進のため、教養講座の開催や輪投げ、オセロなどを当クラブの中心に位置する千波市民センターで楽しむ。もう一つは、「動くサロン」と称して、小型バス (定員 25 名) を借り上げ、買い物や見学、食事などをコースに入れる「見学・買物ツアー」を行なう。施設見学で教養を深め、日常生活で買い物に不便を感じている方への生活支援を行い、お互いの絆を確かめ親睦を深める。参加費は1人当り昼食込みで3,500～4,000円程度。

一般の高齢者の方にもチラシなどで呼びかけており、6名が参加、内3名が即日入会、後日2名が入会してくれたこともあった。

両サロンともなかなか好評を得ており、参加者の希望を取り入れながら元気な高齢者としての活動を続けていきたいと考えている。なお、このサロン活動は、26年10月から水戸市社会福祉協議会の「ふれあいサロン助成事業」より補助を受けている。



ゲームサロン
(オセロ)



ポケットファームときどきで
パッキング 昼食



JA直売所で野菜購入



鶴の岬での
新年会懇親

60歳の会長を登用！

好文智の会 細谷 智二郎 (五軒地区)

当クラブは、会員数 91 名の偕楽園および常磐神社周辺に位置するクラブです。主な活動として、五軒地区高齢者クラブ連合会と共同で幼稚園児との昔遊びや凧作り、3世代ふれあいペタンク・オセロ・いも植え・いも掘り、小学校スクールガード立哨などを行っています。また、

地区各種団体の催しのうち、偕楽園で行われる五軒香梅ひな流しや、観梅時期の常磐神社梅茶接待活動のお手伝いをしています。単体活動として、毎朝健康維持のためのラジオ体操、月1回観光地近隣のオモテナシを目標とした偕楽園入口・常磐神社前の清掃および資源回収を行っています。単体活動は、現在参加メンバーが減少しつつあるため、今年度からは60歳の会長を登用し、幅広い層からの参加を図っていく予定です。

ふれあい夏まつり、子どもたちに
占領される人気コーナー、とじょうすくい
水がお湯になってしまうヨ！



地域子ども会との
協同作業
(ふれあい事業)
公園花壇植え付けと
水やり当番分担。



年に一度のバス旅行、
未会員同伴OK 10月
25名栃木市内見物・
全員笑顔で一日楽しむ

世代交流と新規会員獲得策

グリーン千波 大里公雄 (緑岡地区)

当クラブでは、クラブ活性化と会員増強策としてこれまでもさまざまな事業に取り組んできた。健康クラブや食事会を兼ねた親睦会は、発足当時から一般の高齢者の方々にも呼び掛け、会員も増えてきた。当クラブの特徴は、厳しいルールで縛らないことである。健康クラブのウォーキングは、子ども連れ、愛犬の同行もOKとしている。和気あいあい、話をしながら情報交換をしたり、健康チェックも取り入れ、現在24名の参加者が楽しんで参加している。

さらに、平成26年度から5か年計画で始まった全国運動「会員100万人増強運動」を受けて、我がクラブもさらに活動の活性化と会員加入に力を入れようということになった。特に地域活動に力を入れようと、子どもたちとの交流や、スポーツや親睦旅行なども一般の方々に広く参加を呼びかけることにした。会員増加も大歓迎であるが、各世代が交流できて、温かい心で暮らせる地域づくりに貢献できたら幸せである。

常磐神社前の
清掃活動



わたしたちは水戸市高齢者クラブ連合会の活動を応援しています

高壮クラブ

皆さんの投稿欄です

節目の年とは

双葉台 上条 哲

敗戦後70年、今年は節目の年と政府やマスコミは唱えている。

敗戦を実感した、あるいは敗戦後の国民生活、戦後復興の苦しい時代を経験した国民は現在20%も生存していないのではと推測する。

敗戦の日以降に生まれた国民を現代人、その日以前にこの世に出てきた国民を近代人と分別する歴史学者がいる。

ある女子大学で、近代現代史について講義を始める時、教授が「過去において我が国が戦争をした相手国はどの国だったか」と質問した。30%の学生が米国と戦争し、わが国が惨敗したことを知らなかった。

高齢者の会合で、現行憲法成立過程について、諸般の差し迫った状況において敗戦後、早々に憲法が公布に至ったことを勉強したらどうかと私は提案した。

70歳前後の全ての女性たちは、全く関心を示さなかった。経済回復、庶民生活が平穩に過ぎ、対外戦争も無く、自衛隊は災害復興部隊とみられている今日、このような状況にあることは不思議な現象ではなくなったと言えるのではあるまいか。

年々、昭和の厳しい時代を体験し、GHQから与えられた憲法であることの認識を持つ国民がこの世に別れを告げて行く。今こそ、これらの事態に深い認識を持つ高齢者が語り部となって、敗戦後の経緯や自分たちが生きてきた有様を子孫に、さらに機会を捉えて周囲の国民に伝えていく時だと考察する。それこそ節目の70年であると私は申したい。

やめられないウォーキング

藤井寿楽会 富田 貢

多くの方々が、楽しんでいるウォーキング。私もはじめて40年近くになる。

コースはいくつかあって、季節やその日の気分によって楽しんでいる。朝のすがすがしい空気の中、歩ける幸せを感じながら。

また、仲間との出会い、会話もできて生きがいにもなっている。

この時期（4月）には、桜をはじめ、チューリップなどの花が咲き誇り、まさに百花繚乱。茂みからは、鶯の合唱も聞こえる早朝。

「けん玉」ボランティア活動の思い出

赤塚 清水 勇吉

陸軍軍人として21歳から24歳まで中国戦線に参戦したが、戦局は日本に利あらず敗戦となった。中国人民の被害が甚大だったにも関わらず、身柄移管後（私はソ連軍の5年間の拘留苦役後、戦犯容疑で撫順戦犯管理所に引き渡された）は、食事・環境・医療など、すべてにおいてソ連抑留時の悲惨な扱いに比べ手厚いものだった。

中国人民軍の指導は「復讐や制裁では憎しみの連鎖は切れない。日本人の習慣を守り、人道的扱いをするように」との対応は6年間続き、戦犯としての起訴を免ぜられ、本国に帰還することができた。

概ね16年ぶりの帰国ということで、古くからの友人や知人が集まり、盛大な宴会を開いてくれた。拘留期間の体験から、生きるということ、働くということ、建設ということなどの大切さが自然と湧出し、身震いした。

早速、就活に走り廻ったところ、抑留体験という「根性」が認められ商社マンとして建築資材の販売に携わることができた。販路拡

四季折々の自然の変化にも感謝している。時々、ひとり暮らしの方を訪問し、声かけしたり、話をきいたりする。笑顔に触れた時などは「ほっと」する。

日課となっているウォーキングは、健康管理や仲間との絆、づくりのためにももやめられない。

随想 ― 作家人生 ―

駅前長寿会 田中つぎ子

持病の関節炎も八十路を過ぎ、ますます歩行困難、こもりがちのこの頃、毎月の短歌投

大、社業拡張に東奔西走、東京の拠点以外に北は群馬、栃木、茨城など、各店に支店を開設、幾多の支店長の重責をも担った。

60歳後半になり身体の養生を理由に第一線を退き、社の顧問役としての仕事を継続しながらも、時間的余裕が出てきたのを機会に「ボランティア（けん玉）」活動に力を注いだ。

それは、水戸での生活も10年くらいたった頃、地方を巡りながらどの市町村に行っても集団で子ども達の遊び戯れる姿がなかったことに気付き始めていたからである。私が少年の頃は、どんな広場でも子ども達が集まり、遅くまで元気に遊んでいたものである。

そんなことから、あんなに楽しかった少年時代の体験を、どの地域でも展開出来たらという高まる気持ちに押された私は、早速「けん玉」協会茨城支部に登録した。

いくつか忘れられない思い出がある。

その日、品の良いお婆ちゃんに連れられた小学校2・3年生位の少年が、コマと紐を私に差し出した。何らかの障害があることが解った私は、少年を背後から抱きかかえる様にして私の前に座らせた。「紐はこう巻くんだよ。」と彼の耳元で説明しながら、ゆっくりと二人で紐を巻いた。言葉としては何の反応も無いものの、少年の体の温もりを、これ

稿も所属の歌会も欠席しがち、よくよく考えて、月例の友部短歌会を始め、全ての会を退会したが、わが身の全てをもち取られた一抹の寂しさを感じる。

40余年の作歌をしてきて、これが私の日記帳のようなもので人生の苦楽が全て短歌に埋め尽くされている。

現在の心境2首

再びは戻る、ことなきかの若さ

返り咲く薔薇、いよいよ紅し

幾度も 今年限りと思いつつ

胸あつく見上ぐ 桜よさくら

ほど愛しく感じたことはなかった。

また、こんなこともあった。小学校6年生位の少年のことで、彼は他の遊びには手を触れず、もっぱら「けん玉」の練習に精を出していた。技の程度によって、各級の合格証を渡す制度があり、少しでも高級位を取るべく競い合っていたのである。少年は実技認定の本番で失敗をして不合格になっていたが、試験官である私が「ご苦労さん、随分頑張ったのにもう少しかったね。ハイツこれはおまけの合格証だ。」というと、少年は「先生僕は出来なかったんだから、これは貰えません」と、合格証を受け取らなかった。瞬間、私はドキッとショックを受けた。遊びとは言いながら、私の態度が何と不真面目であり、皆の努力に対して不遜であったと自戒とした次第である。

何の特技も持たなかった私が、こんな幸せな生涯を送らせて頂くのも、永年にわたりボランティア活動を続けるにあたり、多くの方々と感動と共に感激を共有することができた結果であったと深謝する次第である。

最後に、一連のボランティア活動の功績として、名誉ある賞を賜った。何歳になっても、褒められることは嬉しいことである。すべての方々に心から御礼申し上げたい。

わたしたちは水戸市高齢者クラブ連合会の活動を応援しています

水戸市高連の「会員増強運動」について

＝平成 26 年度
市高連リーダー研修会＝

日 時：平成 27 年 3 月 3 日 13 時～16 時
場 所：水戸市福祉ボランティア会館大研修室
参加者：市高連役員、単位クラブ会長、
地区代表女性委員、次期リーダーとして
活躍が期待できる方々約 90 人

主な研修内容

- 新しい介護保険制度について
(高齡福祉課 副参事 堀口泰夫)
- 「100 万人会員増強運動」について：
市高連の取り組み
(市高連 会長 清水昭郎)
- 事例報告
 - ①地域見守りネットワーク事業
「安心・安全見守り隊」活動について
(浜田竹クラブ 会長 郡司 茂)
 - ②仲間づくりと活動の活性化を目指して
(梅が丘北長寿会 会長 桑名義教)
- 情報・意見交換会と総括

水戸市高連における「会員増強運動」では、あえて数字目標を掲げず、短期的には会員による勧誘活動の重視とクラブの解散を防ぐことに重点を置く。中長期的には「地域支え合い活動」に積極的に関わり「地域づくり活動」の一翼を担い、地域から信頼される組織、高齢者クラブを作り、会員の増強、確保に努める。

事例報告では、高齢者クラブによるひとり暮らし高齢者の見守り・訪問活動を実践している事例と長寿社会を迎え会員 1 人ひとりが会員を増やす努力をし、活動無くして会員増なしをクラブのテーマに掲げ、日常活動の大切さを強調した事例の発表があった。双方とも 26 年度の活動賞受賞クラブである。傾聴に値する内容だった。

結論的には、超高齢社会とは高齢者が高齢者をどう支えていくかが問われている社会でもある。元気な高齢者が、足腰の弱った高齢者を支えるという使命感が持てるか否かが最大のポイントとなろう。非常にタイムリーな研修会であった。

- 運動 1 **勧誘から始めよう！**
会員一人ひとりが勧誘の担い手です
高年は高年に、女性は女性に声かけを
- 運動 2 **クラブを PR しよう！**
あなたのクラブは地域に知られていますか？
ポスター・チラシ・会報・ホームページなど
- 運動 3 **クラブの解散を防ごう！**
会員減少の 7 割は解散が原因です
地域団体と連携して後継者を見つけよう
- 運動 4 **クラブをつくろう！**
すべての地域にクラブを設置しよう
市高連直轄のサークルクラブをつくろう
- 運動 5 **友愛チームをつくろう！**
無理のない形で 1 クラブ、1 友愛チームを結成しよう
- 運動 6 **ふれあいサロンの運営を！**
地区高連に少なくとも一つのふれあいサロンをつくろう

「高壮だより水戸」 投稿規程

- 「高壮だより水戸」は年 2 回、6 月と 1 月に発行。
 - 高壮クラブ（会員の投稿）約 300 字以内
 - 文芸（俳句・短歌・川柳）1 人 2 句または 2 首以内
 - 種別・住所・氏名・電話番号・所属クラブをハガキに記してご投稿ください。
 - ブロック便り約 500 字以内
- 締切日は特に設けておりません。いつでも受け付けております。ただし、事務局から単位クラブ会長宛に、原稿募集のご案内をする場合は、締切日をお守り下さい。紙面に限りがありますので、掲載の採否は広報委員会で決めさせていただきます。
- 字数を超えたもの等は一部割愛させていただきます。また、文章は一部修正する場合があります。原稿・写真は原則返却できません。
- 提出先 事務局まで

安心して活動するための保険のご紹介

傷害保険

自分自身のための保険です！

- ◆団体割引が適用されています。
- ◆ケガで 1 日だけの入院・通院でも補償
- ◆高齢者クラブ会員なら、年齢制限もなくだれでも加入できます。

- 補償範囲：総合型と活動型の 2 種類
 - <①総合型> 1 人年額掛金
3,500 円、5,000 円、10,000 円
＊活動中はもちろん日常生活全般のケガも補償
＊海外旅行中のケガも補償
 - <②活動型> 1 人年額掛金
500 円、1,000 円、2,000 円
＊クラブ活動中のケガとその往復途上（通常の通路）のケガを補償
＊活動中の飲食を原因とする細菌性食中毒（O-157 等の病原性大腸菌）を補償
- クラブを通して 1 人でも 1 年中いつでも加入できます。

賠償責任保険

相手の損害を補償する保険です！

- これまで、クラブ活動中のけがや事故の際、代表者の方が手当や救済、仲裁など、多大な苦勞を重ねています。また、近年、慰謝料を含め賠償金額が多額となり個人では負担しきれなくなりました。そこで登場したのが、相手の損害を補償する保険です！
- 補償範囲：クラブ活動中のみ（往復途上を含む）
 - 掛金：1 人年間掛け金 100 円（1 クラブ全員一括加入）
- クラブ運営には欠かせない保険です。是非ご検討をねがいます。



誰かのモノを壊してしまった！



誰かをケガさせてしまった！

わたしたちは水戸市高齢者クラブ連合会の活動を応援しています

特別寄稿

高齢者クラブへ

期待すること

地域活動に欠かせない団体

柳河市民センター 所長 宮本 一也



先日、私の勤務する柳河地区のグラウンドゴルフ大会が開催された。梅雨明けと同時にギラギラとした日差しの中の大会

でした。そのような条件でありながら、力強いショットや大きな笑い声が飛び交うその光景に、私自身が元気をもらったり、とても安心感を抱いた。

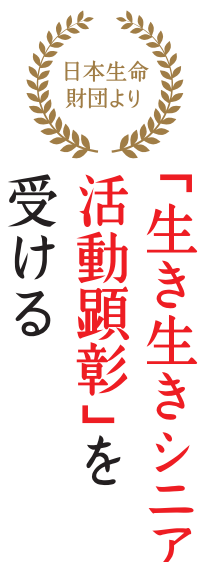
本市においても、例外ではなく、高齢化が進んでいることは事実であり、対応すべき現代

的課題になっている。しかしながら、私の周りの高齢者の皆さんは、自身の趣味的な活動はもとより、学び直したい事柄や新しい自分づくりへの挑戦、長年培ってきた技術等の向上といった生涯学習に取り組む方々も多く、高齢者クラブ活動の活性化へもつながっていると感じさせられるものである。

また、実際、高齢者クラブの活動は、社会奉仕活動をはじめ、スポーツ活動や文化活動を主体的にバランスよく実施しており、地域社会を豊かなものにする一翼を担っていることや地域活動に不可欠な団体となっていることは、まぎれもない事実である。

今後、さらに会員を増やし、活動への理解をいただくためや、会員間で情報共有ができる、このような機関紙の役割は大きいものとなり、また、一般市民への情報発信を続けていくことが大切である。

めまぐるしく変貌する社会の中で、高齢者クラブの役割は、ますます注目されることとなるでしょう。



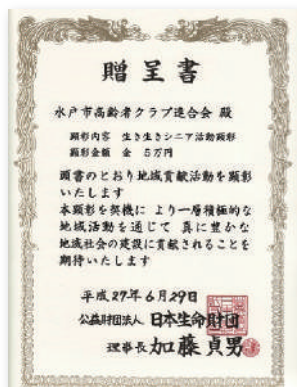
受ける

平成27年6月29日、県庁舎会議室で、（公財）日本生命財団の「児童・少年の健全育成助成」及び「生き生きシニア活動顕彰」の目録贈呈式が行われた。今年度の茨城県の受贈団体は本連合会を含めて12団体。

対象となった、本連合会の主な事業は次の通り。

①水戸市と本連合会が協働で永年実施している「高齢者と子どものふれあい事業」（本紙3面参照）。

②ひとり暮らし高齢者の見守り活動や居場所づくりの一つであるふれあいサロンの開設など高齢者同士の支え合い活動



（公財）日本生命財団では、児童・少年の健全育成に取り組んでいる団体への助成と高齢者の地域貢献・社会貢献活動に対しても、顕彰活動として顕彰金を贈呈している。

顕彰を励みとして、高齢者の生きがい活動、互助活動及び会員の豊かな知見を活かした社会貢献活動を継続し、地域づくりの一翼を担っていききたい。（事務局）

③水戸空襲を中心とした戦争体験と史上類を見ない東日本大震災の体験を綴った創立50周年記念誌「輝く50年、未来につなぐ絆」の刊行と小中学校への複数部配布。

編集後記

市高連は一昨年の創立50周年を経て新たな陣容でスタート、この「高壮だより水戸」も今回50号を迎えました。高齢化が一層加速し、会員増強が迫られている今日、会員向けのお知らせという従来の編集方針をさらに拡張して、より多くの人に手に取って読んでもらえる工夫を取り入れてみました。その一つとして、表紙面に写真を配置して目に留まりやすいようにしたほか、随所に心身ともに健常高齢者として活躍する会員、絆で結びあった家族や知り合いなどの生き生きとした写真を多く配置しました。会員はもとより、市民センターなどでの配布先で、一般市民が目にとまり、関心を持ってくれ、会員増強に役立つことを期待しています。なお、本会報をさらに良くし、お互いが明るく支え合うのに役立つよう、会員の皆さまはもちろん、本会報を見られた一般の方もご意見、ご感想をお寄せ下さい。宛先は本紙冒頭の表題部に記載された当連合会事務局までお願いいたします。（岩本）

広報委員会

副会長	酒出 卓	治
委員長	岩本 多	實
副委員長	大里 公	雄
委員	羽田 和	一
委員	大内 静	江
委員	岡部 壽	子

スポンサー各位への御礼

このたびは、水戸市高齢者クラブ連合会広報紙「高壮だより水戸」の発行にご協賛いただきましてありがとうございます。

高齢者クラブは、高齢者の①生きがいや健康づくり②地域奉仕や友愛活動③子どもとのふれあい活動などの社会活動を通して明るい長寿社会づくりに努めることを活動目的としております。

広報紙は、会員相互の親睦・交流のほか、地域の皆様に活動をご理解いただき、新規加入をお願いする目的も持っております。

これからもご支援、ご理解の程よろしくお願いいたします。

水戸市高齢者クラブ連合会 会長 清水 昭郎

わたしたちは水戸市高齢者クラブ連合会の活動を応援しています